



ごみ集積所のカラス対策について

カラスは、巣作りをはじめ3月頃から、子育ての時期が終わる7月頃まで活動がより活発になります。また優れた視覚を持っているため、赤っぽい色は肉類、水にぬれているようなものは魚類というように「えさ」となる食べ物を探し出します。ごみ集積所がカラスのえさ場とならないよう対策を行いましょう。



台所の生ごみはよく水を切る

対策その1

「食品ロス」ゼロを目指し、えさとなる生ごみを減らしましょう。

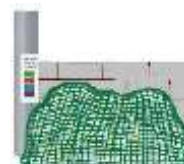
1. 生ごみを出すときは水分を十分に切ります。
2. 生ごみはビニール袋などの小さい袋に入れてしっかり口を結び、中身が見えないよう新聞紙やチラシなどで二重に包みます。



対策その2

防鳥ネットからごみのはみ出さないよう、ごみ全体を包み込むようにして隙間を作らないようにしましょう。

1. 防鳥ネットを重石などで押さえ、めくれ上がらないようにしましょう。
2. 防鳥ネットが破れたり、足りない場合は下記までご相談ください。



雨の多い時期に入ります。

【ごみ集積所のカゴやネットにご注意ください。】

ゲリラ豪雨や突風など雨風が強い状況が続いた場合、ごみ集積所に置かれた防鳥ネットやカゴ(黄色・赤色・青色)が飛ばされ、道路上に飛び出し、危険な場合があります。あらかじめ利用している集積所の状況を確認し、飛ばされない様ご注意ください。

